

田中電気お客様訪問記 チェッカーキャブ 無線協同組合

今回は、銀座8丁目にある、都内でタクシー車両の保有台数ナンバーワン（5600台）のチェッカーキャブ無線協同組合様の無線司令室を訪問しました。迅速に配車の手配を行うため、最新システムを導入しています。



一月に約40,000回以上をこの司令室から配車している

配車依頼の電話が着信すると同時にコンピューターの画面上にお客様の情報（会社名・お電話番号・ご住所・地図）が表示され、（CTIシステム）さらにその情報にもとづきコンピューターが素早く確実な配車を行います。（AVMシステム）

この無線配車システムを当社より1,139台の車両に導入させていただきました。

チェッカー様PR

携帯電話からタクシー予約

【チェッカーキャブ i-mode】をどうぞ

<http://www.checker-cab.co.jp/i/>

電話は、03-3573-3751まで

このMCA無線システムを導入してから配車効率が導入以前の27,000回から4,400回と150%の大幅UPとなり大変に重宝いただいています。



オレンジのボディにチェックの帯が銀座の街によく映えます



カーナビにお客様からの位置情報が即座に示される

田中電気の社員紹介 『今月のこの人』

今月は経理部の関美智代さんをご紹介します。



間接部門 経理部
関 美智代さん

趣味は読書（ミステリ小説）と料理。ありあわせの食材でパッと作ってしまうそうです。最近の楽しみは、4つになる甥っ子に会うことと、TVでのバレーボール観戦とのこと。経理では売上部門を担当しています。売上げに対する未集金には営業マンへ優しくもキビシイチェックが入ります（笑）『経理に来られたら、是非お声をかけてください。』

『最新式のGPSシステムは人工衛星で、各車両がどこにいるかが一目でわかるようになり簡単な操作で誰でも目的地に誘導でき、配車するのが楽になりました。ドライバーも道がわからなくてもカーナビ連動型なので安心です。



チェッカーキャブ無線協同組合
長谷川無線指令室長

この相乗効果がありがたく、システムを導入して、乗務員も経営陣も喜んでいました。』との嬉しいお言葉をいただきました。田中電気の印象は？『トラブルがあったらすっ飛んで来る』とのこと。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

何でもお気軽にお問い合わせください

（記事に関する事や、田中電気へのご質問・その他ご相談など）

0120-118-772 または afc@tanaka-denki.co.jp まで

秋葉原ファクトリーは田中電気のお客様のための窓口です

アキバにこんな店あったんだ！ 『むだや』



UDXを超えて末広町方面に歩いていくと『むだや』の看板が。気になって入ってみると1F、B1にはほんとに無駄なもの(笑)がたくさん。最近雑誌などでも話題のお店とのこと。なくてもいいけどあったら楽しいものがコンセプトです。(YUKIさん)



イチオシは、ジャッジペンというボールペン(写真上)。ペンから「完全勝訴」の紙が。他のバージョンも
SHOP DATA：千代田区外神田4-6-7
カングエイビル1F・B1F
TEL：03-5298-3696



★お知らせ



『危機管理産業展2007』に出展します
2007年10/17(水)~10/19(金) 10:00~17:00
場所 東京ビッグサイト
田中電気ブース 西1ホール 1A-36

「危機管理用無線通信システム」をテーマにし、災害時における通信手段として、非常に有効性の高い業務用無線システム(mc Access-e/NEXNET)をご紹介します。簡易無線機器等の展示や通話デモも行います。是非ご来場ください！

※ホームページから事前登録いただきますと、展示会入場料(当日2,000円)が無料となります。

公式Webサイト <http://www.kikikanri.biz>

詳細は、情報システム本部

03-3253-2812 担当 新島まで

江戸の歴史

『お台場』

シリーズ No. 9



1853年にペリー艦隊が来航して幕府に開国要求を迫ると、幕府は江戸の直接防衛のために伊豆代官の江川太郎左衛門に命じて、洋式の海上砲台を建設させた。工事は急ピッチで進められ、砲台は翌1854年にペリーが2度目の来航をするまでに一部は完成しており、「品川台場」と呼ばれた。

ペリー艦隊は品川沖まで来たが、この砲台のおかげで横浜まで引き返し、そこでペリーが上陸することになった。台は石垣で囲まれた正方形や五角形の洋式砲台で、第一から第七まで建設された。現在は台場公園として開放されている第三台場と、他の埠頭などと繋がっていない第六台場が残されている。

なお「お台場」は「砲台場」がナマったものという。つまり日本各地にあるほかの台場も「お台場」と呼んで差し支えない。

明治初期から東京湾では埋立てが行われていたが、昭和15年(1940年)に東京湾が開港し、特に第二次世界大戦後は工業用地の造成やゴミ処理による埋立てが進んだ。

その中で13号の埋立地は東京湾の海底を掘削した際の残土により埋め立てが進められ1979年に完成、そのうち北部は幕府が築いた台場にちなんでお台場と呼ばれた。

東京都は都心の混雑を緩和するため、臨海部を副都心として開発を進め企業の進出が誘致された。りんかい線の全線開通もあって、商業施設のみならず居住施設やランドマークも続々と誕生している。